

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名

新潟大学

学部・研究科等名

医学部

## 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 教育の実施体制

## 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

## 顕著な変化のあった観点名 基本的組織の編成

医学科では、地域医療を担う人材を育成するため、地域枠入学 15 名を新設し、総入学定員を 125 名に増加した。その内訳は、平成 20 年度に前期日程定員を 5 名、地域枠を 5 名、平成 21 年度に地域枠を 5 名、平成 22 年度（平成 22 年 3 月入試）に地域枠を 5 名の定員増である。その際、医師・医学者に相応しい人材の確保のため、推薦入試のみならず、すべての入試受験者の面接試験を平成 19 年度より開始した。これらに伴い、大学内予算で 4 名の教授定員の純増を決定し、文部科学省からも 6 名の教員定員増が認められ、増加した教員を重点的に教育強化のために配置することを決定した。

平成 19 年度に設置した「医学教育改革推進室」（医学部長が室長、兼任の准教授が副室長、兼任で 2 名技術職員）が本格的に業務を開始した。この組織はカリキュラムの評価、共通試験の実施等を行い、講座を超えた教育活動をしている。これらの取組は、単にコア・カリキュラムガイドラインに沿って医学教育を進めるだけでなく、新潟地域の医療の充実に視点を置き、教員組織を有効に活用する独自性の高いものである。平成 21 年度には、「総合地域医療学講座」（特任教授 1，助教 2）を新設して、医学科カリキュラム中に地域医療に関する授業を学年進行に合わせて実施している。

平成 20 年度に医学科学士入学を 3 年次入学から 2 年次入学にした。これによって、従来履修できなかった医学研究実習や診療参加型臨床実習を含めて、一般学生と同一の専門科目を履修することになり、教育効果の向上が期待できる。この取り組みは、一般入学者に比べて低い国家試験合格率（合格率が平均 80%）の向上にも寄与することが期待できる。

## 顕著な変化のあった観点名 教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制

医学科では、授業評価が毎年実施され、学生のアンケート評価を各臨床科にフィードバックし、実習内容の改良を促した。平成 20，21 年度の臨床実習に対する評価はおおむね良好であった。また、複数のカリキュラムに対する学生評価が向上した（資料）。

保健学科では、これまで FD の実施を各専攻に任せていたが、平成 21 年度に保健学科全体の FD 委員会を立ち上げ、講師を外から招聘し、定期的に行うようにした。これにより GP に対する理解が深まり、GP 案が複数提案されるようになり、医歯学総合病院と連携して申請した「気づく」を育て伸ばす臨床キャリア開発」が文部科学省の「看護職キャリアシステム構築プラン」GP に採択された。

資料 臨床実習に対する学生の評価（全臨床科の平均値，5 点満点，\*平成 21 年度と質問内容が異なるので不記載）

	アンケート内容	平成 18 年度	平成 21 年度
教育態度	教員が学生を教育しようとする雰囲気があった	4.1	4.1
	教員が学生の熱意に答えようとしていた	4.1	4.2
実習計画	実習の組み方計画的で適切だった	*	4.0
	きちんと指導する体制が整っていた	*	3.9
	実習時間は適切だった	*	4.0
実習指導	説明・指導がわかりやすかった	4.2	4.3
	学生の質問にきちんと対応してくれた	*	4.4
達成度	知識や技術が十分に身についた	*	3.9
	学びたいことについてしっかりと実行できた	*	3.9
興味関心	実習前に比べてその科に対する興味・関心が高まった	*	3.9

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名

新潟大学

学部・研究科等名

医学部

## 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 教育内容

## 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

顕著な変化のあった観点名 学生や社会からの要請への対応

- 1) 新潟県は人口当たりの医師数が全国で最低レベルの県の1つである。地域医療の充実を求める県の要請に応え、平成21年度に「総合地域医療学講座」を新設した。この講座に所属する一部の教員は、大学ではなく、学生の実習先の病院を主たる職場として、学生の教育に当たる。この講座を中心に新規に、2年次「医学概論」の学習テーマに地域医療教育を、4年次「臨床実習入門」中に「地域医療」ユニットを設け、平成22年度からは5年生全員に1週間の「地域医療実習」を行うカリキュラム再編を決定した。この講座は、新しい地域医療システム(例えば遠隔テレビシステム)の開発研究も行い、これらの成果を即座に教育プログラムに組み入れることにより、地域医療教育の効率化、高度化を図る。
- 2) 海外での実習を希望する学生が増加し、派遣先を開拓して、希望を叶える努力を要する状況になっている。平成20,21年度に海外実習先として4つの機関を拡充し、イタリアカリアリ大学とは学部間交流協定を締結した。その1つである、マレーシア・ケバングサン大学では、学部4年の医学研究実習の配属先として、当該地の学生と一緒に地域医療・保健の実習を行った。平成21年度からは、これまで学生の個人負担であった海外実習にかかわる経費の一部を「海外留学」として認定し、留学資金を援助した(援助数6名、援助総額1,059,548円)。
- 3) 診療参加型臨床実習先として既存以外の実習先を希望する学生からの要望および臨床実習を新規に担当したいとの市中病院からの要望に応じて、平成20,21年度に学外実習先病院として5病院と5診療科を新規に開拓し、多様化した。これらの取り組みは、学生の地域医療への興味を高めるとともに、市中病院における研修力の向上および地域への医師の定着率の向上に寄与することが期待できる。
- 4) 医歯学図書館(医学科、保健学科、歯学部兼用)およびファミリーレストランが医学科6年生の自学自習場所として利用されてきたが、平成21年度に、無線LANを完備した医学科6年生専用の自習室(75㎡)を新設した。平成22年3月の平均利用率は14人/日で、利用希望者数が定員をオーバーすることが頻繁だったことから、平成22年度にもう1室の整備を決定した。
- 5) 医学専門教育を1年次から受講したいという学生からの要望に応じて、平成20年度に医学の概略を教える科目として、システムバイオロジーの講義を1年生に対して新規に導入した。
- 6) 保健学科では、これまで三専攻に入学した新入生同士の親睦を目的とした合宿研修の内容を大幅に見直し、平成20年度から大学病院見学を中心とした研修に変えた。この結果、新入生の目的意識の確立や、動機づけに大きな効果が得られ、一年間旭町キャンパスから離れた五十嵐キャンパスでの勉学中のモチベーションの維持につながった。

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名

新潟大学

学部・研究科等名

医学部

## 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 教育方法

## 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

顕著な変化のあった観点名 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

保健学科検査技術科学専攻では、カリキュラムの見直しを行い、整理統合を行う一方で2年生に対し平成21年度から「臨床検査概論」を新たに立ち上げ、現場の技師を招いて臨場感溢れる講義をしていただき、更に学生にその現場を見学させ、現場を実体験してもらい、キャリア教育の実質化に向けた初期教育の効果を上げている。

顕著な変化のあった観点名 主体的な学習を促す取組

平成19年度に、1学年全員が同時に臨床手技の模擬訓練を行える、身体診察や救急蘇生の各種シミュレーターを配備した臨床技能教育センター(709 m<sup>2</sup>)を設置した。この施設を、臨床実習入門の授業およびOSCE会場としても利用しているが、学生が自由に練習できる自習時間を設け、主体的学習を推奨している。このような大規模の臨床技能の模擬訓練施設は全国的にも先進的で、学生の臨床へのモチベーションを高揚し、臨床実習に必要な態度・手技を予め修得させるのにきわめて有効である。実際に、4年生の進級要件としてOSCEとCBTを導入して以来初めて、平成21年度の4年生全員がOSCEとCBTに追試験無しに合格した(資料)。

資料 4年次生におけるOSCEとCBTの年度別成績

	OSCE (人)		CBT (人)	
	追試受験者数	不合格者数	追試受験者数	不合格者数
平成21年度	0	0	0	0
平成20年度	4	0	3	1
平成19年度	5	0	2	0
平成18年度	13	0	4	1
平成17年度	6	1	3	2

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名

新潟大学

学部・研究科等名

医学部

## 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 学業の成果

## 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

顕著な変化のあった観点名 学生が身に付けた学力や資質・能力

CBT と OSCE の成績が判定基準を変更することなしに年々向上しており、特に、平成 21 年度には 4 年生全員が初めて、追試験無しで CBT と OSCE に合格した(資料 1)。これらの成果は、1～4 年次に行ってきた、さまざまな教育改善の取り組みが効果を上げていることを示している。また、本学医学部における CBT の成績は医師国家試験の合格率とも高い相関を示すことから、今後、医師国家試験合格率の向上にも繋がることが期待できる。

基礎医学研究実習の成果として、学会発表および論文を発表する学生が年々増加している(資料 2)。平成 21 年度に第 115 回日本解剖学会・学術集会の学生部門で発表した 1 名は優秀賞を受賞した。これらは、課題解決力、論理的文章の作成力および発表力の育成が成果を挙げていることを示している。

## 資料 1 CBT と OSCE の年度別成績

区 分		平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
CBT	追試験受験者数	3	4	2	3	0
	不合格者数	2	1	0	1	0
OSCE	追試験受験者数	6	13	5	4	0
	不合格者数	1	0	0	0	0

## 資料 2 4 年次基礎医学研究実習の成果

区 分	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
国内学会筆頭発表数	0	1	6	7	5
国内学会発表共同演者数	0	0	1	1	1
国際学会筆頭発表者数	0	0	0	0	1
国際学会発表共同演者数	0	0	0	1	0
和文筆頭論文数	1	0	1	1	0
和文共著論文数	1	0	0	0	0

顕著な変化のあった観点名 学業の成果に関する学生の評価

平成 21 年度の学生アンケートによれば、臨床実習に対する 6 年次の達成度と興味関心において、全科平均でともに 3.9 点(5 点満点)の評価をあげており、良好な成果が上がっていると言える。一方で、平成 18 年度の達成度の評価は 3.6 点であり、平成 21 年度と平成 18 年度とで質問内容が異なるために正確な比較はできないが、教育改善の効果が現れていると判断している。

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名	新潟大学	学部・研究科等名	医学部
-----	------	----------	-----

### 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目 進路・就職の状況

### 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

顕著な変化のあった観点名 卒業（修了）後の進路の状況

卒業後の国家試験合格率は高いレベルを維持しており、医師国家試験においては、学士入学を除くと、平成 20, 21 年度とも、94%以上の高い合格率を維持している（資料 1）。また、平成 20 年度の看護師、保健師、助産師、診療放射線技師の 4 つの国家試験で合格率 100%を達成したことは特筆される。また、卒後臨床研修については、平成 18, 19 年度と比較すると、平成 20, 21 年度は県内で研修する卒業生が増加し、地域医療教育を強化してきた成果の 1 つであると言える（資料 2）。

資料 1 平成 19～21 年度卒業生の国家試験合格状況

区 分	平成 19 年度			平成 20 年度			平成 21 年度		
	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
医師国家試験 (学士編入学生)	94 ( 5)	86 ( 3)	91.5	107 ( 4)	105 ( 4)	98.1	99 ( 5)	92 ( 3)	92.9
看護師国家試験	80	80	100.0	79	79	100.0	74	74	100.0
保健師国家試験	91	81	89.0	89	89	100.0	84	75	89.3
助産師国家試験	18	18	100.0	18	18	100.0	18	13	72.2
診療放射線技師国家試験	39	36	92.3	40	40	100.0	36	36	100.0
臨床検査技師国家試験	38	34	89.5	36	31	86.1	42	35	83.3

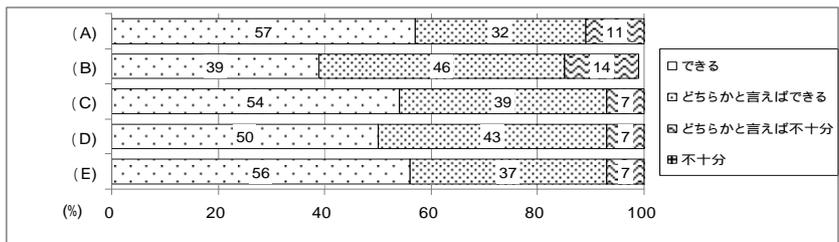
資料 2 平成 19～21 年度卒後研修先の県内・県外別の人数

年 度	卒業生数	県内勤務数	県外勤務数	県内割合 (%)
平成 19 年度	94	40	54	42.6
平成 20 年度	107	65	42	60.7
平成 21 年度	99	48	51	48.5

顕著な変化のあった観点名 関係者からの評価

平成 21 年度に、本学を卒業した前期研修医に対するアンケート調査を、学外研修病院を対象として実施した（資料 3）。5 項目すべてについて 80%以上の指導医が 4 段階評価（できる、どちらかといえばできる、どちらかといえば不十分、不十分）で良好な評価（できる、どちらかといえばできる）をしており、チーム医療の一員として、全人的な医療を担える人材育成教育を行ってきたことの成果が現れていることを示している。

資料 3 学外研修病院指導医の前期研修医に対する評価



- (A) 他のスタッフと協力して、チーム医療を行うことができる
- (B) チーム医療のリーダーとして診療できる
- (C) 患者さんの立場に立った医療ができる
- (D) 患者さんの家族の立場に立った医療ができる
- (E) 患者さんの個人情報適切に管理できる